

授 業 目 名	言語聴覚障害診断学演習 I	授 業 形 態	演 習
		配 当 学 期	2年（後期）
担 当 教 員 名	春 芳 準 朗	単 位 数	1単位
		時 間 数	30時間
授 業 概 要 学 習 目 標	<p>〔授業概要〕</p> <p>言語障害を呈した人々を援助するためには、的確な評価・診断が必要不可欠である。本講義では診断に至る一連の流れを通して、診断についての基礎的な考え、検査方法の選択とともに解釈について学習する。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>実習に向けた検査の施行において、自分の課題を見つける。</p>		
授 業 回 数	授 業 内 容		
第 1 回	概論		
第 2 回	高次脳機能検査 ※SLTA-ST、失語症語彙検査、構文検査、トークン、重度失語症検査		
第 3 回	高次脳機能検査 CADL、抽象後理解検査、各グループでローテーションで実施する		
第 4 回	高次脳機能検査		
第 5 回	高次脳機能検査		
第 6 回	高次脳機能検査		
第 7 回	高次脳機能検査		
第 8 回	高次脳機能検査		
第 9 回	高次脳機能検査		
第 10 回	高次脳機能検査		
第 11 回	高次脳機能検査		
第 12 回	OSCE		
第 13 回	OSCE		
第 14 回	OSCE		
第 15 回	OSCE		
評 価 方 法	OSCEにて評価（100%）		
教 科 書 参 考 図 書	〔教科書〕 適宜資料を配付		
履 修 上 の 留 意 点	自らが主体的に検査に取り組み、疑問点をもちながら取り組むこと マニュアルをしっかりと読むこと		
メ ッ セ ー ジ	実習に向けて重要な教科になります。受け身では進まない内容となっております。		